

受賞者氏名	竹原正篤、長谷川直哉	 
所属	人間環境学部人間環境学科	
受賞年月日	2021年5月22日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	特定非営利活動法人 環境経営学会	
受賞名	学会賞（学術貢献賞）	
受賞(研究)内容詳細	<p><u>1. 受賞対象となった研究</u></p> <p>書籍名：『Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG』</p> <p>発刊時期：2020年12月</p> <p>出版社：Palgrave Macmillan（ロンドン）</p>  <p><u>2. 研究の背景・内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本書は、法政大学イノベーション・マネジメント研究センターの研究プロジェクトである「企業家史研究会」の長年の研究活動の成果から、特に近年注力してきたサステナブル経営の先駆者にスポットを当てた研究成果を、英語で論文化し、さらにそれらを書籍としてまとめ、海外の出版社から発刊したものである。 具体的には、主に日本の戦前期（第二次世界大戦以前）に、現代企業に求められているサステナブル経営を先取りして実践した13人の企業家の経営哲学・手法を分析し、その現代的な意義を考察した。 <p><u>3. 受賞理由（授与機関のコメント）</u></p> <p>「本著は、戦前日本の起業家が、社会的価値と経済的価値を創出する経営を実践した事例研究をまとめた意欲的な著作である。特に、英語での発刊により、日本の持続可能経営の源泉がこれほどの歴史を持っていることを、海外に広く発信していることや、SDGsの視点から論じている新規性などの点が高く評価される」</p> <p><u>4. 本研究の学術的意義</u></p> <p>(1) 豊田佐吉、鈴木道雄、石橋正二郎、伊庭貞剛、鈴木馬左也、高峰譲吉をはじめとする、今日の日本を代表する企業の礎を築いた企業家が、当時の環境問題や社会課題の解決を第一に考えた経営を行い、社会価値と経済価値の共通価値を創出し、今日の大企業へと導いたことを英語で出版し、海外の実務家や研究者が知る機会を提供したこと。</p> <p>(2) 英語圏ではこれまで紹介される機会が少なかった戦前期のわが国の企業家が取り組んだ社会課題の解決を通じた社会変革を、SDGsやESGという現代企業の求められている課題の観点から論じ、英語で発刊したこと。</p>	